

論文・レポート作成法【その2】



○研究論文に求められる要素を理解しよう！

<<研究論文のルール>>

①立証できない個人見解だけでは論文となりえない。

⇒ ⇒ 論文には自分が主張したい結論が必要ですが、それが理論やデータによってサポートされなければ単なる思い付きにしか過ぎません。具体的根拠となる材料を必ず用意しましょう。

②論文は過去の研究成果を踏まえて上で成り立つ。

⇒ ⇒ どの分野でも、過去の累積に新しい事実や理論が追加されて発展します。よって、すでに発表されている理論や事例、データを幅広く調べた上で、自分の考えを述べましょう。

③文献を単に要約したり、まとめたりしただけのものは論文ではない。

⇒ ⇒ 一遍の図書や論文内で用いるには、引用や要約のルールに従って、注をつけて出典を明確にしましょう。

④他人の著作や研究成果、統計データなどの無断使用・無断書き換えは厳禁。

⇒ ⇒ 過去の研究成果などを論文内で用いるには、引用や要約のルールに従って注をつけて出典を明確にしましょう。

⑤研究論文では論理的に批判し、展開する。

⇒ ⇒ 感情的な文章表現(修飾語の多用や比喻の使用)を避けましょう。
また、論が飛躍すると論理的とは言えず、説得力がありません。

(参照: 斉藤孝『学術論文の技法』第2版 東京、日本エディタースクール出版部、1998: 816/SA2/3 ほか)

○資料形態別の特性を知って文献を探そう！

優れた卒業論文やレポートを書くためには、テーマの決定後文献に掲載された過去の研究成果や統計データ事例などを幅広く探さることが必要です。

これらの学術情報は印刷媒体だけではなく、オンラインデータベースやCD-ROM等の電子媒体、マイクロフィルムなどで提供されているので、大学図書館・短大図書館を利用しましょう。

そのうち、もっとも一般的である印刷媒体には、図書・雑誌・新聞の3つの資料形態があります。それぞれ長所・短所があるため、得られる情報の種類もその情報の利用目的もおおのずと異なります。

* 情報の速さでは……

新聞、雑誌、図書 の順です。

毎日発行される新聞は、やはり速報性が特徴です。一方、図書は執筆するのに日にちを要する上、さらに印刷・流通の時間もかかるため、発行時の情報の新鮮さでは劣ります。学術的には、最新の研究成果は論文としてまずその分野の学会誌や専門雑誌に掲載されるのが一般的です。

* 情報の濃さでは……

図書(学術雑誌含む)、一般雑誌、新聞 の順です。

学術書や学術雑誌(学会誌、専門雑誌、など=JOURNAL)の場合、通常執筆にあたって著者は膨大な研究や調査を行っているため、論文作成のための研究資料・参考文献としてふさわしいものです。それに対して、娯楽・教養を目的とした一般雑誌(=MAGAZINE)や新聞は一般の読者を対象とした読み物です。よって、研究論文への引用にあたっては、その情報の価値を吟味する必要があります。

○短大図書館では「図書館資料の探し方」のガイダンスを5~7、9~12月の間行っております。是非ご参加ください。
詳しくは館内掲示板、ホームページをご覧ください。